

## 「秋田大学学生海外派遣支援事業」帰国報告書

記入日：平成 21 年 2 月 24 日

所属：教育文化学部 国際言語文化課程 欧米文化選修 4 年

氏名：最上貴子

派遣先大学名：米国 セント・クラウド州立大学

在籍身分：交換留学生

派遣期間：平成 19 年 6 月から平成 20 年 5 月まで

渡航年月日 平成 19 年 6 月 3 日

帰国年月日 平成 20 年 5 月 15 日

### ○ 研究・学習概要及び今後の勉学計画

アメリカの大学では、秋田大学での専攻に関係なく、さまざまな授業を履修した。例えば、スペイン語、倫理、コミュニケーション、留学生のためのアメリカ文化についての授業、女性学、アメリカの政治、ツアーリズムなど多種にわたる。このように、分野を絞らずに履修した理由は、いろいろな授業形態において、普通のアメリカ人や留学生と混ざって勉強してみたいと思ったからである。

これらの授業の中でも、女性学の授業が印象深い。なぜなら、それぞれの国にはそれぞれの女性の在り方や現状があることを知ったからである。今、アメリカをはじめとする先進国では、女性の社会進出や地位の向上が著しく、男女平等が叫ばれている。一方、発展途上国にはそうではない国が数多くある。例えば、インドのある地方では、男性は仲間と雑談をして、暇なときは寝るというように、好きなことだけをして過ごせる。一方、女性は子育てや家事といった家庭の仕事と、商人としての外仕事とを両方こなさなければならない。アフリカのある地域では、女性を狙ったレイプがいまだに多発しており、女性は男性に抵抗することができない。

このように、女性学の授業を通し、世界中の女性の現状について知ることで、視野が広がった。このことより、無数にある世界中のその他の文化や現状を詳しく知りたいと思うようになった。この授業で得た、世界中にはそれぞれの国の事情があり、考え方がありということを理解したいという気持ちを、将来に向けて育て続けたい。その気持ちを育てることによって、将来的に、異なった立場や考え方の違う人々が、差別なく、満足して暮らしていけるような社会をつくりあげることに貢献したい。

### ○ 生活面について

実際にアメリカで生活し、留学前に想像していた通りのアメリカの側面と、それとは異なったアメリカの側面の両方を見ることができた。アメリカのイメージとして、何をしても許されるような、自由の国というイメージがあった。例えば、実際に、普段寮で過ごしていて、寮での飲酒が禁止されているにもかかわらず、金曜日になると、こっそり飲酒して酔い、警報機を鳴らしてしまう者がいる。その他にも、ルームメイトが眠っているにもかかわらず、自分の恋人を部屋に招き、2 人の世界を楽しもうとする者もいる。日常的な

場面としては、境遇が違う相手とも、年齢や権力によって歪められた上下関係に恐れる必要なく、お互いを尊重し合って意見交換や会話ができる。このような様子がアメリカについて想像していたイメージと一致していた。

反対に、意外に思ったことは、他人に対して親切であるということや、家族との絆が強いことである。以前、アメリカには人種差別があるため、他人に対して不親切であるというイメージがあった。しかし、多くの人々は、人種に関係なく、親切に話しかけてきたり、困っているときは当然のように助けてくれたりした。テスト前に、たまたま通りかかったクラスメイトにテスト範囲が難しいということ話を話したところ、なんと、要点をまとめてEメールで送ってくれた。このように、アメリカは親切な人々であふれていた。

留学以前、アメリカ人は独立精神が強く、個人の生活を中心とするため、両親とは疎遠になりがちだという話を聞いていた。しかし、実際はその多くが家族を大切にすることがわかり、そのギャップに驚いた。なぜなら、クリスマスやサンクスギビングといった祝日は、学生は必ずといってよいほど家族と過ごし、団欒を楽しんでいる。さらに、日本には、夏休みや冬休みといった長い休みでも実家に帰らない学生が多数いる。しかし、アメリカ人学生の多くは実家へ帰る。そのため、学校に残っているのは留学生だけといった状態であり、アメリカ人学生は家族との絆が強いと思った。留学を通し、このようにアメリカの実情を知ることができた。

## ○ 感想

留学は私にとって、今までの人生における最大の刺激であり、宝物である。アメリカ人だけではなく、いろいろな国からやってきた留学生と交流する機会が持てて、本当に幸せであった。彼らと一緒にクラスで勉強し、友人として交流し、時間を共有できたことはかけがえのないことだと思う。人種のサラダボウルといわれるように、アメリカは、さまざまな国を出身とする人から構成される。そのため、留学中はアメリカにいながらにして世界中の国の料理を食べたといっても過言でないほど、多国籍の料理を食べてきた。あまり写真として残っていないのが残念だが、出会った料理の数々を紹介したい。



1, 2 サンクスギビングの料理。ルームメイトの家にて。

信じられないほど多くの料理が並んでいる。ケーキの種類は、レモンケーキ、ピーナッツバターケーキ、チョコケーキなど5種類以上。



3, 4, 5 スリランカの料理。

スリランカ人の友達が作ってくれた。左上の色がついたご飯は、チャーハンのようなもの。右上はインド料理に似ているが、カレーの中には赤玉ねぎが入っており、スリランカオリジナルのように思われる。真ん中は、ごはんココナツミルクを混ぜた、甘い料理。